

中国リハビリ事情

中国では、PT・OT・STといった資格制度が存在しておらず、医療関係資格では医師・看護師・技師の3つに大別されます。

リハビリテーションにおける専門職は、2006年よりスタートしています。これらは「リハビリ療師」と言われ、助手・理療師・高級理療師の3階級に分かれています。

しかし10年には、人口10万人当たりのリハビリ師数は、日本が130人に対し、中国では3人と極めて少ない状況で、現在も不足しています。そうした理由からも医師などがリハを行っているこ

とが多いのも事実です。

2013年時点で総合病院全体の24・6%にあたる3288カ所の病院がリハ科を設立し、リハ専門病院は338カ所存在すると報告されています。

リハ科に勤務しているリハ医は全体で1万5949人、療法士は1万3747人、看護師は1万137人。それでも日本の総人口以上に高齢者が存在する中国のリハ需要を満たすことはできません。

ハード面に関しては、日本同様の最新機器が入っていることが多いのですが、それを使用するスタッフ教育が追いついておらず、正しく使えな

圧倒的に不足しているリハ職

つたり、対象者へのカリキュラムや評価が不十分だったりと適切なリハが行えていないのが現状です。未だに中国では、リハビリテーションIIマッサージというイメージが強くあるため、リハを提供するスタッフ、それを受ける患者共にリハとは何か曖昧な状態とも言えます。

それに加えて、ICFという心身機能や構造についての内容にだけ注目がちで、活動や参加項目までみて患者や他職種、環境因子などを包括的に考え、介入を実施し

ゲストハウス総経理

稲田義人



中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール

ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

ていくという視点が乏しいように感じます。

私達はこれらが中国の医療現場で起こっているリハの現状として捉え、

介護現場へは更に浸透していないと感じているなか、今後如何にして介護施設で高齢者の為のリハを提供していけるかを考え実践していきます。